

第 18 回中野総合学科新校（仮称）再編実施計画懇話会

日時：令和 7 年 11 月 4 日（火）

17 時 30 分～19 時

会場：中野市中央公民館 講堂

<次 第>

1 開 会

2 挨 拶

3 新構成員自己紹介、旧構成員挨拶

4 会議事項

- （１）「第 17 回中野総合学科新校再編実施計画懇話会」まとめ
- （２）ワーキンググループ、施設コンセプトについて
- （３）視察報告
- （４）今後のスケジュールについて
- （５）校名選考について
- （６）その他

5 諸連絡

<次回の予定>

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関する事
- （2）校地・施設・設備等に関する事
- （3）管理運営等に関する事
- （4）教育内容等に関する事
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

（構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

（開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

令和 7 年度 第18回 中野総合学科新校 再編実施計画懇話会 構成員名簿（敬称略）

	区分	氏名（○：座長）	所属等		新構成員
1	自治体	竹内 敏昭	中野市 副市長		
2		久保田 敦	山ノ内町 副町長		
3		○ 柴本 豊	中野市教育委員会 教育長		
4		竹内 延彦	山ノ内町教育委員会 教育長		
5	産業界	藏谷 伸太郎	信州中野商工会議所 議員		
6		中島 弘子	山ノ内町商工会 女性部部長		
7	同窓会	斉藤 武美	中野立志館高等学校同窓会 副会長		
8		綱嶋 健二	中野西高等学校同窓会 会長		
9	P T A	中山 雅登	中野立志館高等学校 P T A 会長		
10		芋川 利幸	中野西高等学校 P T A 会長		
11		荒井 健悟	中高 P T A 連合会（中学校代表）		
12		外山 平	中高 P T A 連合会（小学校代表）		
13		岡田 美穂	小布施中学校 P T A 副会長		
14	学校関係者	山崎 巖	中野立志館高等学校 校長		
15		阿部 佳代子	中野立志館高等学校 教諭		
16		堀内 和徳	中野西高等学校 校長		
17		荒川 英子	中野西高等学校 教諭		
18		小山 正博	中高飯水校長会 会長（中野平中学校）		
19		市村 一彦	中高飯水校長会 副会長（日野小学校）		
20		嶋田 和美	上高井郡校長会（小布施中学校）		
21	学識経験者	大日方 悦夫	元県立高等学校長		
22	地域	三森 和子	北信地域振興局 局長		
23		佐藤 素子	山ノ内中学校保護者		
	生徒	新構成員		旧構成員	
25		合津 悠翔	中野立志館高等学校生徒会長	黒岩 佳佑	○
26		佐藤 結羅	中野立志館高等学校生徒会副会長	川邊 暖太	○
27		笠原 れい	中野立志館高等学校生徒会副会長	宮入 彩愛	○
28		土屋 瑠生	中野西高等学校生徒会長	宮川 響	○
29		青木 颯星	中野西高等学校生徒会副会長	渡辺 琉之介	○
30		滝澤 陸斗	中野西高等学校生徒会副会長	阿藤 綾	○

事務局					
中野立志館高等学校		中野西高等学校		高校教育課 高校再編推進室	
生田 憲克	全日制教頭	小野 陽子	教頭	原 多恵子	主幹指導主事
杢村 将生	定時制教頭	宮尾 久枝		荻原 洋平	主任指導主事
阿部 佳代子		佐々木 優也		細萱 裕樹	主任指導主事
小林 ちひろ		佐藤 拓哉		貝野 宗司	主事
清水 潔		荒川 英子		学びの改革支援課	
滝澤 真一				佐久 浩信	主任指導主事

第 17 回 中野総合学科新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ(案)

日 時	令和 7 年(2025 年)7 月 15 日(火)17 時 30 分～19 時 00 分		
場 所	中野立志館高校 大講義室		
出 席 (敬称略)	竹内敏昭、柴本豊、綱嶋健二、中山雅登、芋川利幸、荒井健吾、外山平、岡田美穂、山崎巖、阿部佳代子、堀内和徳、荒川英子、小山正博、市村一彦、嶋田和美、佐藤素子、黒岩佳佑、宮入彩愛、川邊暖太、宮川響、渡辺琉之介、阿藤綾（以上 22 名）		
欠 席 (敬称略)	久保田敦、竹内延彦、藏谷伸太郎、 中島弘子、斉藤武美、大日方悦夫、 三森和子（以上 7 名）	傍聴者	6 名 マスコミ 2 社
事務局	中野立志館高校	生田全日制教頭、 阿部教諭、小林教諭、清水教諭、 滝澤教諭	
	中野西高校	小野教頭、 宮尾教諭、佐々木教諭、佐藤教諭、 荒川教諭	
	県教育委員会	原主幹指導主事、荻原主任指導主事、 細萱主任指導主事、佐久主任指導主事	
当日資料	第 17 回懇話会会議資料		

会議事項
(1) 「第 16 回中野総合学科新校再編実施計画懇話会」まとめ
(2) 中野総合学科新校施設整備について
(3) 校名選考に向けて
(4) その他

主な内容(要旨) ・ 質問 ⇒事務局回答
<p>(1) 「第 16 回中野総合学科新校再編実施計画懇話会」まとめ(承認)</p> <p>(2) 中野総合学科新校施設整備事業について</p> <p>【開校時期と竣工の関係】</p> <p>○新校の開校は令和 12 年 4 月を予定しているが、校舎全体の完成はずれる。「新たな学び」を早くスタートさせるため準備が整った校舎から段階的に活用していく。</p> <p>【一足制】</p> <p>○現在進行中の他の新校の多くも一足制を採用する予定である。昇降口の小スペース化や生徒登校時の混雑緩和などの物理的メリットもあるが、単なる履物の省略ではなく、教育環境デザインの一部として、校内外をつなぎ、物理的・心理的なバリアを取り除き「新しい学び」の実践環境を支える可能性を持っている。雪対策などのデメリットへの対応を考えたいうえで進めていく。</p> <p>【配置案】</p> <p>○前回の懇話会の 3 つの案のうち、2 階の 2・3 年次の空間が既存棟と通路でつながり、回遊性が確保できる点で評価された案をベースに検討を進めている。特徴は授業間移動の多い総合学科の特性を考慮し、LP(ラーニングパサージュ)を設置することで、新校舎と既存の専門科棟を内部空間でつなぎ移動しやすくした。</p> <p>○地域とのつながりを考慮し、「ソソラひろば」を設置し、ソソラホールや市役所と連携し地域イベントにも対応できるようにした。地域連携協働室として「中野カフェ」「ファブラボ」を計画した。</p> <p>【工事工程(ローリング計画および工事スケジュール)】</p> <p>○校舎部分は北側部分の改築後に南側部分を改築するため、開校時に北側部分が完成している予定である。現時点のスケジュールを示すが、今後引越し時期や詳細な工事内容について検討している。竣工は開校より 1 年半ほど遅れる。</p> <p><質疑・意見等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一足制について、清掃は誰がいつ行うのか。 ⇒基本的には生徒が掃除するが、マットの配置や床の工夫など細部を検討する。 ・配置案について、前は 3 つの案があったと思うが、6 ページのものに決まったのか。 ・3 つの案の中でこれに決めたという一番のポイントは何か。 ⇒3 案あった内の 3 番目(右側)のものをベースにブラッシュアップしたものを提示した。 ⇒新校舎と既存の機械電気棟を回遊できる廊下を設置し、利便性が高いことが一番評価されたところである。 ・1 年次の教室は 8 つあるが、2・3 年次の教室が不足しているのではないか。

- ・ホームルームの時間等に定まった教室がないということか。
⇒2・3年次は多目的 CR を含めて1年次と同じ教室数を用意している。2・3年次は移動教室での授業が多いため、多様な使い方ができる計画となっている。荷物は LL（ロッカーラウンジ）に置き、固定の部屋としての利用もできるし、2室を一つの部屋として利用するなど多様な形で使える空間としている。

(3) 校名選考について

○中野総合学科新校の校名選考の観点

今後検討していく。

<質疑・意見等>

- ・最も多く投票があった校名が選ばれるものではないとはどういう意味か。
⇒しっかりと検討した上で決定していきたいと考えている。
- ・公募期間が1か月とあるが公募前1か月で告知し公募に1か月、全部で2か月設けてほしい。
⇒純粋な募集期間が1か月でその前に十分な報告をしていかなければならないと考えている。
- ・公募方法に LINE やInstagramなどの方法を加えたらどうか。高校生たちの意見を聞いてもよいのではないか。
- ・高校生は LINE やインスタのほうが投票しやすいのではないか。
- ・LINE やインスタは宣伝に利用し、投票は電子メールなどしっかりとしたところでやるべきではないか。
⇒これからの検討となるが、QR コードなどの利用も考えていきたい。
- ・商標権の調査は、なぜ一次選考から行わないのか。
⇒便利士に相談するにあたり1件ずつ料金が発生するため、数を絞った上で二次選考にて行う。
- ・ChatGPT で商標を調査できないか。
⇒使用を検討しているが、結果がすべて正しいとは限らないということで現段階では難しい。
- ・校名選考の観点がわかりにくいのではないか。観点はシンプルな方がいい。
- ・学校名はシンプルな方がいい。中野高校という名前が復活できるか。歴史ある学校や総合学科でも市立長野高校などシンプルで分かりやすい学校名が好まれているのではないか。
⇒思いを込めると文量的に多くなってしまう。バランスを取りながら端的に思いが伝わるものを検討したいと考えている。今回の協議をどの程度まで反映できるかわからないが、できる限り分かりやすいものを次回以降提示する。

(4) その他

- ・高校卒業後の進路保証をどうやっていくのか。「難関大学への進学を保証する」といったことや、「一部上場企業に何人入れる」といったことのように、分かりやすいアピールポイントをどう考えているのか。
⇒市立長野高校は進学型総合学科であるため大学進学がほとんどであるが、一般的な総合学科は大学進学3割、短大専門学校進学3割、就職4割という比率である。今後どのようなカリキュラムで、どのように進路を保証していくか、WG（ワーキンググループ）で検討していく。進学対応の系列や専門を求める系列などを明示するなど、目標を定めて中学生に安心して入学してもらえるよう、現在の系列の見直しも含めて検討していく。
- ・一足制について、降雨で教室が汚れる。下足入れ等のコストは削減できても清掃にかかるコストは毎年かかるのではないか。
⇒清掃面や冬の雪などは危惧している。来年4月開校の高校も一足制であり先行事例を参考に進めていきたい。
- ・須坂新校など普通科を残している例もあるが、中野から普通科をなくしてしまう理由が不明。中学生の7割が普通科を希望する中で、中学生がどんどん流出してしまう構図になっているのではないか。
⇒総合学科は普通科と同じ授業を選択することができる。大学進学を希望する生徒は、受験に必要な科目を選択すればよい。全県で今は単位制という方向になっていく。小諸新校や伊那新校も単位制で、進学に必要な科目を選択するようになっていく。総合学科も同じく単位制であるので基本的に考え方は同じである。総合学科は魅力のある学校であり、生徒たちが自分の進路、キャリアプランを見定め、1年次に科目「産業社会と人間」の中で自分の適性を考え、2年次からの科目選択を行う。課題や懸念を払拭して魅力ある学校を作っていきたい。

その他

【次回懇話会】

- ・期日：10月頃（予定）
- ・日時、内容等の調整が済み次第、開催通知にてお知らせする

中野総合学科新校ワーキンググループの設置と進捗状況(報告)

1 ワーキンググループの設置目的

新校開校に向けて、新校の学校運営など具体的な事項について専門的に検討する。

2 設置するワーキンググループと主な検討事項

(1) 学校運営検討ワーキンググループ（令和7年7月より）

校名選考、学校目標・基本理念・教育方針（スクールミッション、3つの方針）、
校歌・校旗・校章など
学校運営に関する全般（ワーキンググループの統括）

(2) 教務ワーキンググループ（令和7年11月より）

年間行事予定、履修・修得・単位認定、学期制、系列（選択科目）、広報、渉外など

(3) 進路・学習指導ワーキンググループ（令和7年11月より）

教育課程、探究的な学び、地域共学共創コンソーシアム連携、進路指導方針など

(4) 校舎・施設ワーキンググループ（令和7年11月より）

施設整備全般、引越計画、既存校舎の整備など

(5) 生徒会ワーキンググループ（令和7年11月より）

生徒会組織、生徒会行事、部活動、校則、制服など

(6) 定時制

単位制導入検討、教育課程編成、引越計画など

3 スケジュール（別紙参照）

- ・今年度は、『学びのイメージ』を具現化するため、ワーキンググループなどにおいて、どのような教育活動ができるかを検討し、まとめていく。そして、それらが校名募集、さらには施設設備設計などに反映されるように進めていく。
- ・学校運営検討ワーキンググループをこれまで4回実施した。中野総合学科新校施設コンセプトの一つである「想定される活動」を検討課題にしている。また、仮設・新校に向けた引越計画として備品等のリスト化を年内に行う方向で進めていく。今後については、スクールミッション、3つの方針にも着手していく。
- ・各ワーキンググループを今後立ち上げていく。

中野総合学科新校 スケジュール

2025. 9. 25 第4版

[illegible]

施設名	長野スクールデザイン2020の位置づけ (抜粋)	基本計画における記載内容	設置目的 ・なぜ設置するのか ・どんな課題を解決したいのか ・どんな価値を生み出したいか	利用対象 ・誰が利用するのか（生徒、教職員、地域住民、企業等） ・どんなニーズ、期待があるか	想定される活動内容（アイデア） ・どんな活動ができるか ・日常的な利用とイベント的な利用の両方を想定
(例) 中野カフェ			・地域と生徒が自然に交流できる場をつくり、学びと地域貢献を両立させる	・探究活動をする高校生 ・地域の企業	・生徒によるカフェ運営（出張販売） ・定時制生徒の給食 ・地域の人とのワークショップ
1. 中野カフェ (地域連携協働室)	・地域開放による学校以外の人との共同利用だけに留まらず、地域や企業の人々が、日常的に来校し、生徒と一緒に考え、何かをつくりあげていくことができる空間 ・生徒が容易に外の社会と関係を構築できる学校施設が必要となっており、例えば、共創空間の一つとして「地域連携協働室」が考えられる。	西高校で実践されてきた中西珈琲の取組を継承	・地域と生徒が交流・協働できる場をつくり、学びと地域貢献を両立させるため。	・探究活動をする高校生 ・地域の企業、様々な世代の住民	・生徒によるカフェ運営、実習や文化祭等での販売 ・生徒会主催の居場所カフェ（イベント） ・地域コーディネーターによる、地域の方との交流イベント ・地元企業の製品展示 ・ファブラボなどで作り上げた机、椅子の配置 ・自習室利用 ・各種ミーティング ・商業科商品開発の販売 ・子ども食堂（外部団体）
2. F L A	・グループワークでの活用等使用目的に応じて柔軟に変えられる。 ・生徒の日常的な動線（廊下）に学習や談話ができる空間を重ねたFLA（中略）のような、生徒の活動内容によって呼び名が変わる流動的な空間	教室と連続して学びの場所をつくる	・廊下を単なる動線とするのではなく、廊下を含む教室やその周囲全体で学びの場とすることで、講義形式に囚われない多様な学びのシーンに対応するため。	・生徒 ・教職員	・授業中などにおけるグループワーク ・空き時間、放課後における自主的な学習 ・生徒の作品展示 ・学年文庫 ・進路ガイダンス等の説明会ブース ・昼食 ・教室の枠を超えた授業 ・簡易的な椅子、机を設置してコミュニケーションスペースとして ・クラスを超えたグループワーク
3. ラーニングパサージュ	・「探究的な学び」を実現するためには、学校内のいたるところで学びが展開できるような、空間の連続性や相互の連携が必要不可欠であり、空間と空間（教室、特別教室、大職員室、廊下等）を有機的に結びつけることができる「ハブ」となる空間が必要である。 ・空間を結び付けることで、教科の枠を超えた融合的な学びや、多様な授業形態に対応できる施設・空間となる。 ・「廊下」の幅員を部分的に拡張し、コーナーとしたり家具を配置するなど、移動以外の活動のきっかけを生み出し、生徒たちの多様な学びに柔軟に対応出来るしつらえとすることで、今までは通路としての機能を持っていた「廊下」が、普通教室や特別教室等とつながる「ハブ」としての役割を持つことになる。	教室でも廊下でもない第3の学びの空間 授業や探究の成果物を掲示したり、各専門科での制作物を展示したり、新校での様々な活動に満ちた場 総合学科では1年生が2、3年生の学びに早期に出会い、将来を考える	・複数の校舎間の移動を内部空間で繋ぐことで、移動時の快適性を担保するため。 ・単なる通路ではなく、様々な活動や学びの場へ昇華させることで、校舎を効率的に活用するため。 ・総合学科という特徴を踏まえ、様々な学びの「見える化」を図るため。	・生徒 ・教職員 ・（地域住民） ・（企業）	・授業中などにおけるグループワーク ・空き時間、放課後における自主的な学習 ・モニター設置による、生徒への連絡掲示板 ・授業や探究などでの学びによる成果物の展示 ・探究などに活用できる書籍の配置 ・文化祭での販売、イベントスペース ・学年、進路行事 ・自習カウンター ・課題提出のための棚 ・各種展示 ・科目選択説明会や企業説明会 ・部活動スペース ・お店、購買、商業科販売 ・チームで協働しての作業 ・生徒個別の質問や相談に乗れる場所の設定
4. ライブラリ	・図書館とパソコン教室を一体化したいわゆる「メディアセンター」を整備することにより、深い専門知識が得られる書籍と、世界中の情報にアクセスするデジタルデバイス等が融合され、知識や情報の共有化による新たな価値の創造など、多様な学びのかたちに対応することが可能	ラーニングパサージュやこもれびのにわと面し、内外連続的な利用を促す学校の中心的な空間	・これまでの図書館機能を保持するため。 ・探究活動や専門科での学習に対応するため。	・生徒 ・教職員 ・（地域住民） ・（企業）	・授業や探究活動などにおいて、いつでもどこでも学習できる環境づくり ・多様な教育活動の促進、支援 ・ビブリオバトルへの参加支援 ・教材研究 ・ICTコーナー、電子書籍アクセススペース ・個別学習スペース ・一人の生徒の居場所 ・生徒会活動 ・探究で必要なCDや映像の視聴 ・調べ物ができるスペース ・机等によるゾーニング
5. ファブラボ	・生徒や他者との議論などを通じて、自らの思考を深める過程で、実際に手を動かしながら試行錯誤し、何かを創造していくための工具や3Dプリンター等を備えた「クリエイティブラボ」のような空間が不可欠。 ・これにより、例えば、長野県の特徴ある伝統工芸や精密機器産業と関わり、地域振興につながることも考えられる。	立志館高校の専門性を活かしたものづくり工房	・地域と生徒がモノづくりを通じて協働・交流できる場を作り、学びと地域貢献を両立させるため。	・生徒 ・教職員 ・地域住民 ・企業	・中野カフェ等で活用できる工芸品製作 ・文化祭等での工芸品の展示、販売 ・課題研究、探究での個人製作 ・専門家を講師として読んでのイベント ・公民館的機能、カルチャースクール開催 ・そば打ち、工作、DIY教室 ・オリジナルグッズ作り、販売 ・3Dプリンター、工具等を使っでの制作 ・焼き物や工芸品等の制作
6. 大職員室	・長野県の県立高等学校では、教科毎に研究室・準備室等を校内に点在させる配置が一般的で、日常的に教職員が一堂に会する場所が無い中で、教職員間での情報共有、教科の枠を超えた融合的な学び、緊急事態が生じた場合の情報伝達や対応などに課題 ・教職員が一堂に会することができる「大職員室」と呼ばれる空間の整備が有効である。これにより、教科の枠を超えた質の高い授業の展開が期待されるとともに、災害の発生時にも早急な対応が可能となる。		・これまで各研究室で行ってきた業務を行うため。 ・教職員間での情報共有、教科の枠を超えた融合的な学び、緊急事態が生じた場合の情報伝達や対応などに対応するため。	・教職員 ・（生徒）	・学習や進路などに関するさまざまな相談、支援 ・教科、分掌、学年単位での情報共有の場 ・相談コーナー（保護者・生徒個別対応） ・談話コーナー（兼休憩スペース） ・職員会
7. 先生コーナー	・これまで教職員が常駐していた研究室は基本的には置かず、準備室は一時的に使用する場所として、特別教室と一体的に活用することが考えられる。 ・教科の準備、生徒からの質問・相談コーナーなどの執務空間と学習空間を連携させる「ハブ」として機能させることで、教職員と生徒の交流の場となり、生徒の自主的な学習を支援することが可能となる。		・各専門科の教材スペースを確保するため。 ・保管している教材を用いながら、生徒への個別対応を行うため。 ・専門科棟での授業が連続する場合等に、授業準備の場所として機能させるため。	・教職員 ・生徒	・生徒からの学習などに関わる質問、相談 ・専門科教員の教材研究、授業準備、打ち合わせ ・個別補習 ・専門科の教員の常駐室とし、大職員室は普通科教員と生徒相談スペースとして利用
8. ソソラひろば		地域イベント・学校行事・日常的な活動といった多目的に利用できるようおおらかな構成である地域の方々が訪れやすい開かれた空間	・学校の玄関口として、地域との交流の入り口として機能させるため。 ・学校行事や日常的な活動、地域イベント等が、地域に見える箇所で営まれることにより、学校をより開かれたものとするため。	・生徒 ・教職員 ・地域住民 ・企業	・文化祭等におけるイベント（発表、模擬店ブース等） ・販売実習 ・駐車場
9. こもれびのにわ		大人数から少人数まで多様な活動に対応し、学年を超えた交流や利用を促す外部空間 ライブラリーとの一体的な利用も行える場可能な限り既存樹を活用	・異学年間の外部空間での交流を促すため。 ・授業の間や空きコマ等の生徒の居場所を確保するため。	・生徒 ・教職員	・授業の空き時間などの生徒の居場所 ・樹木の手入れ ・科目『美術』などのスケッチ ・ハーブ栽培、ハーブティー楽しむ ・生徒ランチ
10. だんだんのにわ	・学校を居心地のよい空間とするためには教室を閉じられた空間とせず、屋外とのつながりを重視した空間構成が大切である。 ・テラスやバルコニーなどを教室からつながるように配置し、屋外と室内が一体となる空間があることで、リラックスできる快適な環境が生まれるだけでなく、屋外空間を活かした多様な学びや、屋外ならではのものづくりや実験、自然への探究等が深まっていく。	ラーニングパサージュとグラウンドをつなぐ階段、眺めを楽しめ、お昼や談笑、部活の応援などが行える場所	・高低差のある校舎とグラウンドを繋ぐ動線を確保するため。 ・グラウンドの観覧スペースやESDの植栽活動の場として活用するため。	・生徒 ・教職員	・クラスマッチや文化祭等のイベントの観覧スペース ・農業実習、ESDや生徒会による植栽活動 ・生徒ランチ
11. ファームテラス		畑やコンポスト、小屋を備えたテラス 自然の営みや循環を体験しながら学べる場であり、作物を育てたり、土にふれたりする中で、地域の農を知る拠点	・農業の授業を展開する上で必要なため。	・生徒 ・教職員	・農業実習、ESDの活動などをもとに、農作物を育て、中野カフェに生かす ・生徒ランチ
12. 福祉テラス		福祉関係の実習で車いすの練習などに活用できる外部空間	・福祉の授業を展開する上で必要なため。	・生徒 ・教職員	・福祉関係の実習

1. 視察概要

(1) 視察校

ドルトン東京学園中等部・高等部（東京都調布市）

恵泉女学園中学・高等学校（東京都世田谷区）

(2) 参加者

中野立志館：阿部、滝澤、篠原、高澤（学校司書） 4名

中野西：佐々木、中村（学校司書） 2名

県高校教育課：荻原 1名

設計業者：ラーバンデザインオフィス・小林・細谷共同企業体の皆さま 4名

2. ドルトン東京学園中等部・高等部

(1) 学校紹介

- ・ 2019年開校 河合塾が母体（河合塾学園）
- ・ 1学年100人×中1～高3の6学年
クラスはあるようでない
 - ✓ 1学年を25人ずつに分けた 授業時の“ハウス”
 - ✓ 6学年を6つのグループに縦割りした学校生活、行事の時の“ハウス”…担任
- ・ 基本理念「ドルトンプラン」…自由、協働
学習者中心の教育、鋳型にはめず、自由に学べる環境を整える≠好き勝手
 - チャイム、定期考査、校則、校歌、修学旅行、生徒会、PTAなし←常に見直し続ける
- ・ 服装は自由、基準服あり



(2) 学びの特長

- ・ 中等部 45分×7時間、高等部 45分×月火木7時間、水金8時間
- ・ 3つの柱…ハウス、アサインメント、ラボラトリー
→自由に学習を進められるよう設計された課題シート（シラバスのようなもの）
 - ①学習目的・評価方法を明示 ②スケジュールの明確化 ③発展的な課題の提示
- ・ 成績は定期考査ではなく、発表、レポート、成果物。ポートフォリオで成果物を蓄積。
- ・ 教員はサポート役に徹する。協働学習、探究、発表中心、單元ごとの確認テストは自学自習
- ・ 総合的な探求の時間…基礎ラボ、探究ラボ、卒業探究
- ・ 高校74単位で卒業、出席は2分の1。必修修以外全て選択、海外留学の単位認定。卒業単位を満たせなかった生徒は通信制への転学や卒業認定を受験（7学年はない）
- ・ 前期・後期制、2単位を半期で習得。前期で必修修を落としても後期再履修できるしくみあり
- ・ 6～7割総合型選抜、残りは一般受験や海外留学 受験勉強は塾も利用

(3) 施設設備

- ・ 一足制、雨や雪で困ったことはない。週2回生徒が通常清掃、月1回業者
- ・ 廊下は滑りにくく汚れが目立たない素材。
- ・ 教室は絨毯（土足可）。一部屋25人くらいが入れる大きさ。ホワイトボードが2面続きで貼られている。通路に大きめの個人ロッカー
- ・ 校内各所に、生徒の居場所あり。机やイスが置かれていて、生徒は自由に学習できる。

- ・ 生徒が自由に教材や器具などを使用できる。壊れたら買えばいい
- ・ 玄関正面が3階までの吹き抜け。2回フロアにラーニングcommons（図書館1）。図書館は、音も受け入れるオープンなつくり。生徒が静かに学べるスペースも確保。
- ・ 別棟（昨年度完成）にラーニングcommons（図書館2）。中央に靴を脱いでくつろげるスペース。本棚の高さを時計回りにだんだん低くしてある。棚の後ろ側に個々が利用できる机。
- ・ 中1～生徒1台パソコン（各自が用意する）
- ・ 校内に食堂とカフェ

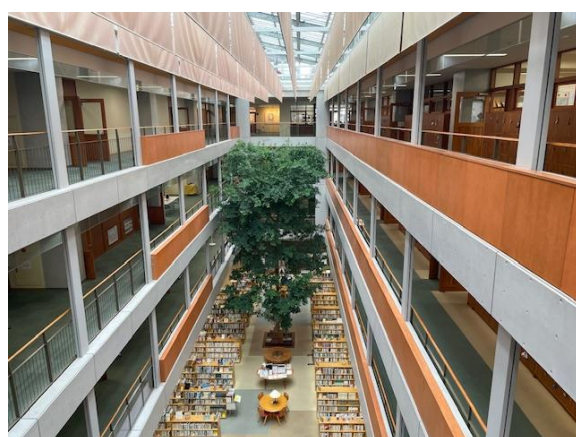
(4) その他

- ・ 修学旅行はなく、中3でオセアニア研修（全員）、高1でアジア研修（希望者）
- ・ 友人と歩きながら英語で会話していた。
- ・ 学費が大学並み

2. 恵泉女学園中学・高等学校

(1) 学校紹介

- ・ 全日制普通科、中高一貫の女子校
- ・ 各学年5クラス（40人）×6学年
- ・ キリスト教系、朝の礼拝
- ・ クラス替えは中1～高2まで毎年。高2・高3は同じクラス、クラスは選択科目に関係なし
- ・ 制服なし



(2) 学びの特長

- ・ 月水金 45分×7コマ、火木は8コマ、休み時間5分
- ・ 大学進学率約90%。4分の1は総合型選抜や指定校。一人一人にあった進路サポート、
- ・ 5・6年生（高2・高3）で科目選択制
- ・ 中1に園芸の時間（2時間）
- ・ 中学生はパソコン貸出式（全員分の台数を確保）、高校生は人1台所持（各自用意）

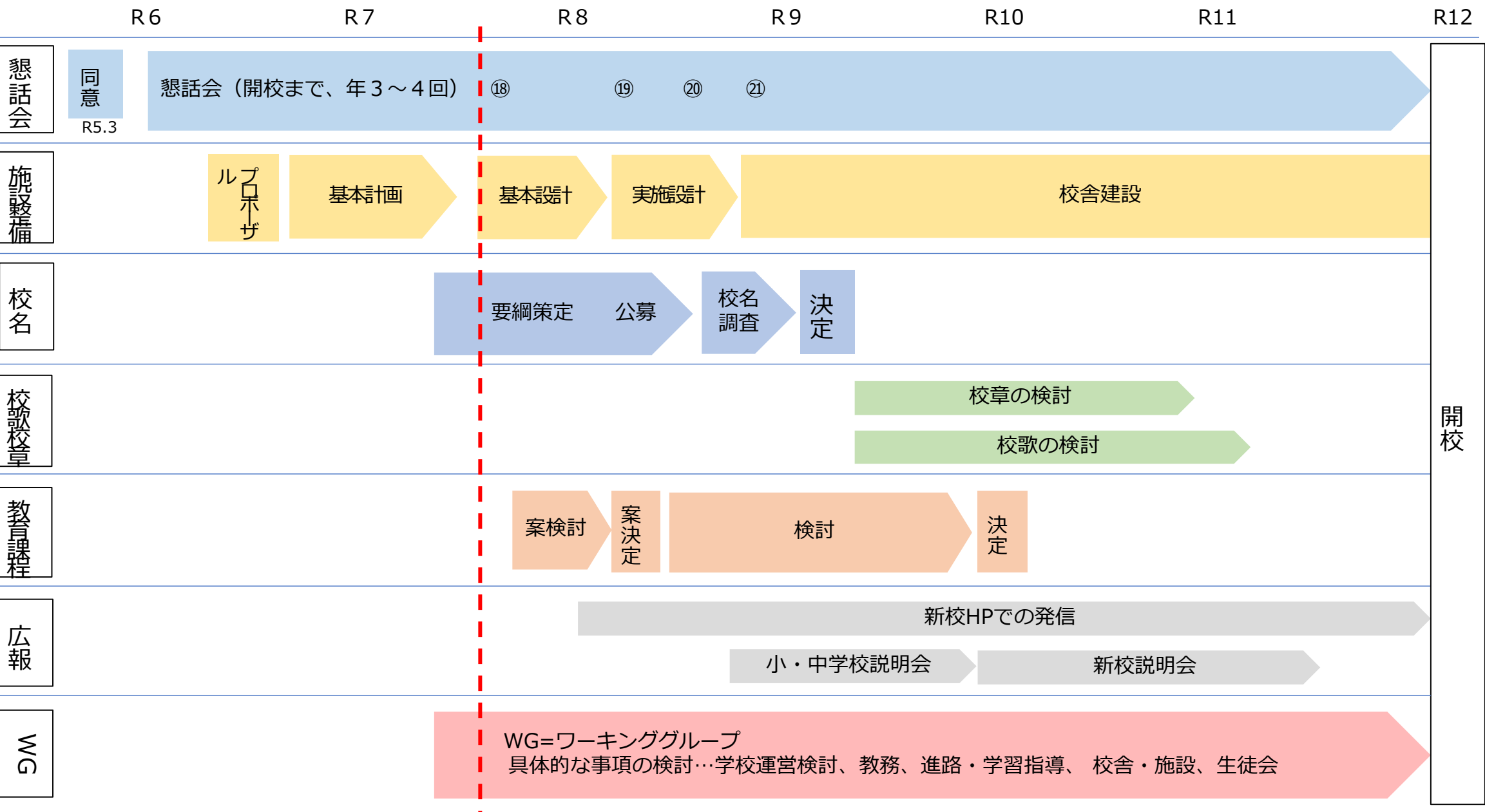
(3) 施設設備

- ・ 上下履き区別、校内は絨毯敷かれていた
- ・ 中学と高校で棟が分かれている。渡り廊下でつながっていて特別教室は共有
- ・ 高校側の校舎は4階吹き抜け、中央がHR教室24教室分の広さのメディアセンター（図書館）。授業でも活用、個別学習できるスペースや部屋がある。屋根はガラス張りだが、ブラインドで光を調整。空調については、上階ほど熱く下階は寒い、図書館には別に暖房を用意。音を受け入れるつくり。奥に行くほど静か。
- ・ 教室の外側壁面に個人ロッカーとコートかけ
- ・ 廊下が広くラーニングスペースが確保されている。放課後自習室の設置
- ・ 1100人ホール（イスのみ）、450人ホール（机付きイス）
- ・ カフェテリア

(4) その他

- ・ 「感話」…礼拝の時やクラス内で実施、生徒が日頃感じていることを文章にして発表（一人年3回程度）。書くことで自分を見つめる、進路指導にもつながっている、自分の中にある弱みやつらい部分を出し、周りも受け止める。人間教育の中心

中野総合学科新校の開校までのロードマップ（イメージ図）



中野総合学科新校 校名募集要項【概要】（案）

公募期間	1 か月
選考の観点	<p>①校名は「長野県 ～ 高等学校」とする。</p> <p>②中野立志館高等学校と中野西高等学校の歴史や伝統を引き継ぎつつ、生徒たちが新たな学びに大きな希望を抱き、未来に向かって育っていくことができる学校像が表現されている。</p> <p>③中野総合学科新校の学びのイメージである「中野立志館高等学校の総合学科と中野西高等学校のユネスコスクールの中心的な学びである ESD（持続可能な開発のための教育）」をベースに、地域との協働を図りながら、大学など上級学校への進学にも対応可能な柔軟なカリキュラムを備えた総合学科新校を目指すに相応しい校名であること。</p>
選考方法	<p>校名選考にあたっては、選考の進め方や方法、公募結果、選考結果を懇話会にて報告し、意見交換を行った上で実施する。</p> <p>〔一次選考〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公募結果を参考に構成員による一次投票を行う。 ・公募及び一次投票の結果を参考に懇話会で校名案を 3 ～ 5 案程度にしぼる。 ・校名案の再検討を含め、構成員からの案を二次投票の対象に加える。 <p>〔二次選考〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次投票の対象となった校名案候補に対し、商標権等の調査を行う。 ・商標権等の調査結果を踏まえ、構成員による二次投票を行う。 ・商標権等の調査及び二次投票の結果を参考に懇話会で最終校名候補を選考する。 <p>〔校名の決定〕</p> <p>懇話会での検討を踏まえ、県教育委員会で決定。</p> <p>（注）あくまでも校名案の募集であり、最も多く投票があった校名が選ばれるものではない。</p>
公募方法	<p>①期間：令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日</p> <p>②内容：校名案と理由</p> <p>③方法：応募資格の制限はなく、郵便、FAX、電子メール、学校事務室への持参</p>

中野総合学科新校 校名募集要項【概要】(案) <修正案>

公募期間	1 か月
選考の観点	<p>① 校名は「長野県 ～ 高等学校」とする。</p> <p><u>【次の②～④のうち、1 つ以上が含まれていること（すべて含めてもよい）】</u></p> <p>② <u>学校の所在地がわかりやすく、親しみがあり生徒が誇りを持てる名称である。</u></p> <p>③ <u>中野立志館高等学校と中野西高等学校のこれまでの歴史や伝統などがイメージされている。</u></p> <p>④ <u>中野総合学科新校の学びのイメージを踏まえた、相応しい校名であること。</u></p>
中野総合学科新校 について	<u>学びのイメージやこれまでの経緯など、校名を考えるうえで参考になる情報を要項に記載する。</u>
選考方法	<p>校名選考にあたっては、選考の進め方や方法、公募結果、選考結果を懇話会にて報告し、意見交換を行った上で実施する。</p> <p>〔一次選考〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公募結果を参考に構成員による一次投票を行う。 ・公募及び一次投票の結果を参考に懇話会で校名案を 3 ～ 5 案程度にしばる。 ・校名案の再検討を含め、構成員からの案を二次投票の対象に加える。 <p>〔二次選考〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次投票の対象となった校名案候補に対し、商標権等の調査を行う。 ・商標権等の調査結果を踏まえ、構成員による二次投票を行う。 ・商標権等の調査及び二次投票の結果を参考に懇話会で最終校名候補を選考する。 <p>〔校名の決定〕</p> <p>懇話会での検討を踏まえ、県教育委員会で決定。</p> <p>(注) あくまでも校名案の募集であり、最も多く投票があった校名が選ばれるものではない。</p>
公募方法	<p>①期間：令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日</p> <p>②内容：校名案と理由</p> <p>③方法：(1)QR コードから応募フォームにアクセスし、インターネットで応募 (2)郵送または持参</p>

中野総合学科新校 校名決定の流れ(案)

長野県教育委員会

新校事務局・WG

先進校の校名選考方法等の情報提供

選考の観点、選考方法の検討・原案作成

懇話会⑰(7/15)

選考の観点、選考方法について意見交換

中野総合学科新校「校名」募集要項(案)の作成

選考の観点、選考方法の再検討

懇話会⑱(11/4)

中野総合学科新校校名募集要項(案)について意見交換

中野総合学科新校「校名」募集要項(案)の作成

中野総合学科新校「校名」募集要項(案)の再検討

懇話会⑲

中野総合学科新校「校名」募集要項の決定

R 月 日 ~ 月 日

中野総合学科新校「校名」募集の公募開始

応募された校名案の整理

懇話会構成員による【一次】投票

懇話会⑳

公募結果の説明、校名案候補の一次選考

商標権調査及び有識者への相談

校名案候補 一次選考の整理

懇話会構成員による【二次】投票

懇話会㉑

校名案候補の決定(最終選考)

同名校、権利侵害等の調査

再編対象校の校長から県教育委員会へ具申

R 月 or 月

教育委員会定例会で校名案の決定

R 月 (予定)

県議会 月定例会で条例改正(予定)

令和 12 年 4 月に中野市に開校する
新しい高校の校名を募集します！

中野総合学科新校「校名」募集要項

1 目的

長野県中野市に令和 12 年（2030 年）4 月に開校する中野総合学科新校（中野立志館高校と中野西高校の統合校）について、長野県教育委員会が進める「新たな学校づくり」に多くの皆様の参画を求めることを目的に、新校の校名を募集します。

2 新校開校の経緯

○「学びの改革 基本構想」平成 29 年（2017 年）

長野県の高校教育を新たな学びに変えていくために、「新たな教育の推進」と「新たな高校づくり」に一体的に取り組むことを基本的な理念とすることをお示しました。

○「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針」平成 30 年（2018 年）

長野県の高校の将来像を具体的に描いていくための方針をお示しました。

○「旧第 2 通学区の高校の将来像を考える協議会」令和 2 年（2020 年）意見書提出

地域の代表の皆様が学びのあり方・環境整備・高校配置などについて意見交換を行い、意見書を提出していただきました。

○「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 再編・整備計画【二次】」令和 3 年（2021 年）

地域の協議会からの意見・提案を踏まえ、「再編・整備計画【二次(案)】」を公表しました。その後に県議会等での議論や住民説明会等でのご意見を踏まえ、「再編・整備計画【二次】」を決定しました。中野立志館高校と中野西高校の統合については、この中に示されています。

3 再編実施計画懇話会での議論

○中野総合学科新校再編実施計画懇話会の開催

県教育委員会が中野総合学科新校の再編実施基本計画を策定するにあたり、対象校が所在する地域の意見を聞くため、令和 3 年 12 月 9 日に第 1 回中野総合学科新校再編実施計画懇話会を開催しました。これまでの開催回数は 19 回を数えます。

中野総合学科新校再編実施計画懇話会には中野・山ノ内・小布施 3 市町の代表者、産業界の代表者、両校の校長・教職員・生徒代表・同窓会代表・PTA 代表、小・中学校会の代表、地域の保護者代表、学識経験者が参加して、毎回活発な意見交換が行われています。

○懇話会の内容（話し合われたこと）

生徒による学校紹介、目指す学校像や育てたい生徒像についてのグループ別討議、学びのイメージへの意見交換、募集学級数・募集開始年度についての意見交換、統合方法についての意見交換、施設整備についての意見交換 など

4 中野総合学科新校の学校像

- ①学校所在地 長野県中野市三好町2丁目1番53号（現在の中野立志館高校の校地）
- ②開校年度 令和12年度（2030年度）
- ③設置学科 全日制課程 総合学科 / 定時制課程 普通科
- ④募集学級数 総合学科7～8学級程度 / 定時制1学級（開校前年度に正式決定します）
- ⑤学びの特徴 *** 別添資料1をご覧ください。**

5 中野総合学科新校の統合方法

- 中野立志館高校と中野西高校は「年次統合」という方法で統合します。
- 年次統合は年度を追って統合が完了するというものです。
- 令和12年度に新校の1期生が入学し、同時に中野立志館高校と中野西高校が募集停止となります。
- 同年度には、新校の校地に、新校1期生と中野立志館高校の2年生と3年生が、中野西高校に2年生と3年生が通学します。
- 翌年度には新校の2期生が入学し、それぞれの学校は3年生のみとなり、全日制最後の卒業生となります。
- 中野立志館高校と中野西高校の生徒は入学した学校の校地でそれぞれの学校の生徒として卒業します。

6 校名選考の方法

校名選考は4つのステップを経て進めていきます。

①公募

多くの皆様から広く校名を募集します。どなたでもご応募できます。特に中野総合学科新校で学ぶ皆様（小学生や中学生）、その保護者の皆様からのご応募をお待ちしています。自分が通学するかもしれない高校の名前を、自分で考えてみませんか。（詳細については「**9 応募の方法**」をご覧ください）

②一次選考

応募された校名ついて、事務局で同名の名称の有無、商標権の確認等の校名案の整理を行い、その後懇話会の構成員による投票で、公募の中から校名候補を3～5案程度に絞り込みます。さらに懇話会構成員からの案を選考対象に加え、校名候補を5～7案程度とします。これにより、商標権等の関係で二次選考対象となる校名候補が減ってしまうことを防ぎます。

③二次選考

二次選考の対象となった校名候補に対して商標権等の調査をおこないます。その結果を踏まえて懇話会構成員による二次投票をおこない、2～3案程度、校名候補を選びます。さらに懇話会での意見交換で最終校名候補を選考します。

④校名の決定

懇話会での検討を踏まえ、県教育委員会で決定します。

（注）あくまでも校名案の募集であり、最も多く投票があった校名が選ばれるものではありません。

7 校名選考の観点

校名候補を以下の観点で選びます。

① 校名は「長野県 ～ 高等学校」とする。

【次の②～④のうち、1つ以上が含まれていること（すべて含めてもよい）】

② 学校の所在地がわかりやすく、親しみがあり生徒が誇りを持てる名称である。

③ 中野立志館高等学校と中野西高等学校のこれまでの歴史や伝統などがイメージされている。

④ 中野総合学科新校の学びのイメージを踏まえた、相応しい校名であること。

8 募集期間

令和 年 月 日（ ）から令和 年 月 日（ ）まで（郵送の場合は締切り当日の消印有効とします）

9 応募の方法

以下の2つの方法で応募できます。

○インターネットを利用した応募・・・応募フォームから必要事項を入力してください。

○郵送または持参・・・募集要項の最終ページにある所定の応募用紙を使用してください。

必要事項は以下のとおりです。必要事項を満たさない応募は選定の対象外としますのでご注意ください。

① 校名案（必ずふりがなを記入してください）

② その校名とした理由

③ 住所（都道府県・市町村）、電話番号、氏名（*匿名は不可です。ご注意ください。）

団体で応募される場合は、団体名と代表者氏名を記入してください

応募先は以下のとおりです。

【応募フォーム】 <https://forms.~>

【郵送先】 〒383-8567 長野県中野市三好町2丁目1番53号

中野立志館高校 中野総合学科新校 校名募集担当 あて

持参する場合は、中野立志館高校または中野西高校の事務室に届けてください。

スマホなどからの応募はこちら

QR コード

応募に際して以下の点にご注意ください。

- ・応募者本人が考えたものであり、他者の権利を侵害しないものとします。
- ・1回の応募につき記入出来るのは1つの校名案とします。
- ・応募にかかる費用は応募者の負担とし、応募用紙の返却はおこないません。
- ・応募に際していただいた個人情報は校名選考以外には使用しません。
- ・決定された名称に関する一切の権利は長野県教育委員会に帰属するものとします。

10 問合せ先

長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室まで、以下のどちらかの方法でお問い合わせください。

○電話によるお問合せ TEL 026-235-7452

「中野総合学科新校の校名選考についての問合せ」であることをお伝えください。

○電子メールによるお問合せ E-mail koko-kaikaku@pref.nagano.lg.jp

件名を【中野総合学科新校 校名選考の問合せ】としてください。

中野総合学科新校 校名募集 応募用紙

①新校の校名案 (ふりがなも記入してください。)	ながのけん 長野県	こうとうがっこう 高等学校
②その校名とした理由		
③住所・電話番号・氏名 (団体で応募する場合は、団体名 と代表者氏名をご記入ください)	〒 TEL 氏名	

【応募にあたっての注意事項】

- ・応募者本人が考えたものであり、他者の権利を侵害しないものとします。
- ・あくまでも校名案の募集であり、最も多く投票があった校名が選ばれるものではありません。
- ・一回の応募につき記入できるのは1つの校名案とします。
- ・応募にかかる費用は、応募者の負担とします。応募用紙の返却は行いません。
- ・応募に際して記入いただいた個人情報、学校名選定以外には使用しません。
- ・決定された名称に関する一切の権利は、長野県教育委員会に帰属するものとします。

【応募先】

・郵送の場合

スマホなどからの応募はこちら

長野県中野立志館高等学校
〒383-8567 長野県中野市三好町2丁目1番53号
中野立志館高校 中野総合学科新校 校名募集担当 あて

QRコード

・持参する場合

中野立志館高校または中野西高校の事務室に届けてください。

【お問合せ先】

長野県教育委員会事務局 高校教育課高校再編推進室

T E L 026-235-7452 F A X 026-235-7488 E-mail koko-kaikaku@pref.nagano.lg.jp

未来に挑戦するための総合学科高校

目指す学校	○挑戦	様々なことに挑戦し、失敗しても粘り強く取り組む力を育む
	○創造	自己と他者を見つめ、社会と積極的に関わりを持ち、変化に柔軟に対応できる創造力を育む
	○協働	地域から世界まで、幅広い視野を持ち、他者と協働し未来社会に貢献できる人を育てる

総合学科×E S D (持続可能な開発のための教育)

キャリアデザイン

多彩な科目

探究学習・E S D

○多様な進路希望に対応できる教育課程

- 自分だけの時間割を作成
 - ・キャリアデザイン・ライフデザインに繋がる多彩な系列(科目群)から自由選択
 - ・大学進学に特化した科目選択も可能
- バラエティーに富んだ学び(系列=科目群)
 - ・普通科目(国語、数学、外国語、芸術等)と専門科目(工業、商業、農業、家庭等)に加え、デジタル(AI、ロボット)、福祉、観光等の現代的な課題にアプローチする学び

○自分の「好き」や「強み」を究める学びを卒業単位として認定

- 単位制の自由度を活かした学校外の様々な取組などを単位認定
 - ・ボランティア活動や長期インターンシップ等の体験的な学び
 - ・英検・漢検などの各種資格取得
 - ・長期・短期の海外留学
 - ・大学生や地域の方とともに取り組む自主的な探究活動
- オンラインの活用等による学び
 - ・大学の講義の受講(先取り履修)、専門学校での体験的な授業や他の高校の授業の履修

○環境、地域の課題や国際理解について地域と協働して取り組むESD

- 地域全体を学びのフィールドとした学習活動
 - ・多様性受容力を高め、学びを深めるための地域共学共創コンソーシアムとの連携(地域の人などを外部講師として活用した授業、地域と協働したフィールドワーク等)
- 異文化理解を深めるための海外との交流や海外留学への支援
 - ・国内外のユネスコスクールとの交流やESD協働学習
 - ・国内外の姉妹校との交流
 - ・地域の教育資源(観光等)を活用した国際交流
 - ・地球規模の課題(平和、貧困・格差等)に取り組むための学校が独自に設定する科目
 - ・信州つばさプロジェクトの積極活用

地域共学共創コンソーシアム



大学・専門学校
幼保小中高



研究・医療
福祉機関



地域産業



自治体

ユネスコスクール



【中野立志館高校の定時制課程は中野総合学科新校に移管】